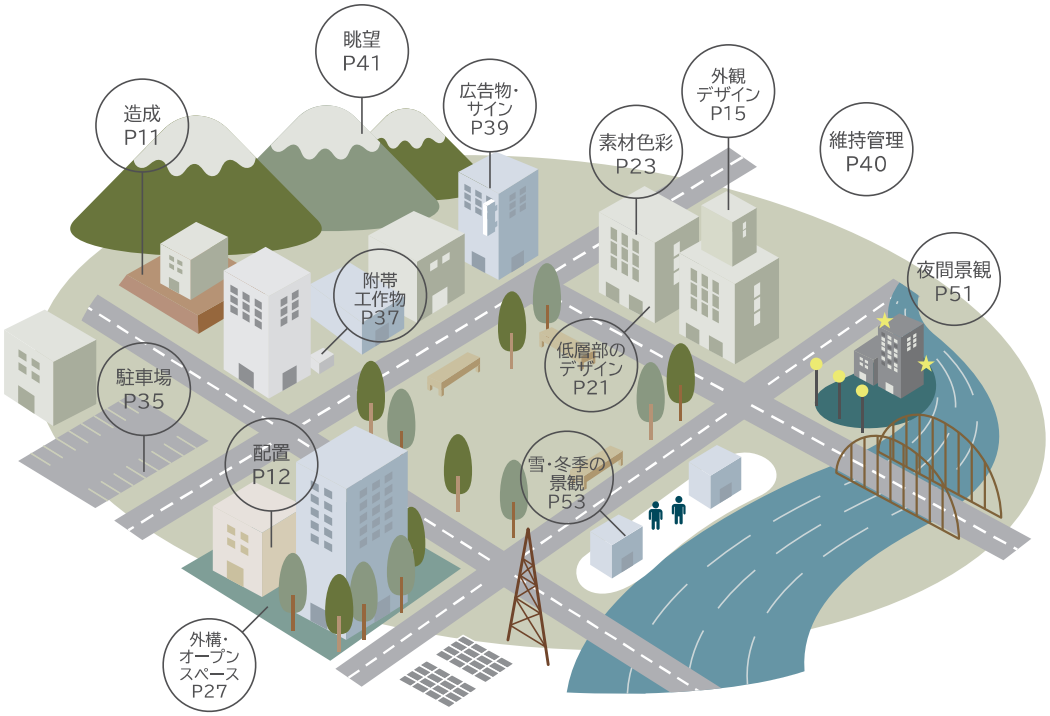
# 【建築物】

# 景観計画区域における景観形成基準と配慮事例



# 造　成

景観形成基準

●土地の造成を行う場合は、地形の特徴を生かすよう努める。（❶❸❺）
●地域に親しまれてきた古木や小さな沢筋などを生かすよう努める。（❷❹）

方針番号 A1 A2

ゾーン基準

■山地のみどりに近接するゾーン
●土地の造成を最小限に抑えるよう努める。（❶❸❺）

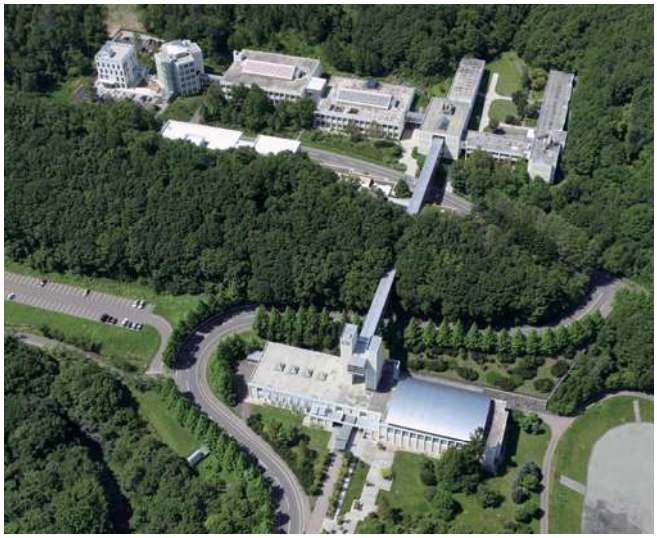
下の配慮事例の中で、関連する事例の番号を示しています

方針番号 A1 A2

景観計画第5章で示す「景観形成の方針」の中でつながりのある方針の番号を示しています
※札幌の景観の特徴を踏まえた「景観形成の方針」一覧はP98を参照

＜配慮事例＞

❶地形を大きく変えないように土地の造成を最小限に抑える。



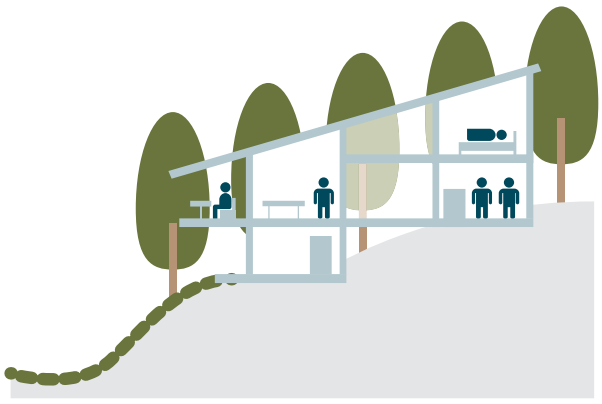
起伏のある敷地を生かした配置計画（札幌市立大学）

❷地域に親しまれてきた古木や既存林を生かして建築物を配置する。



市民に親しまれてきた古木を生かした建築物の配置（カナモトホール（札幌市民ホール）前）

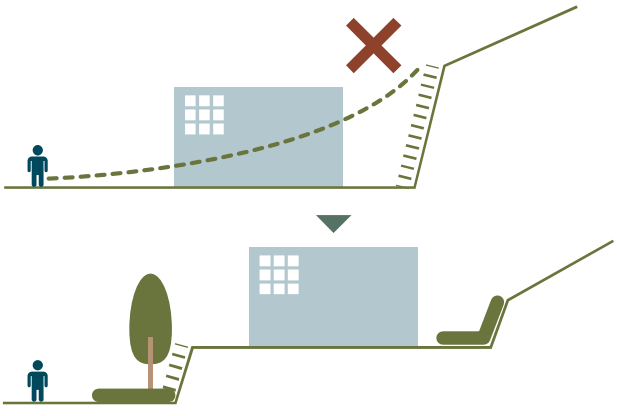
❸地形を建築物の断面計画や敷地計画に生かす。
❹小さな沢筋などの自然環境を生かす。



斜面を生かした断面計画とキャンチレバーで床を浮かせるなど沢筋の地形と自然を守り生かす工夫

❺起伏のある敷地では、大きな擁壁ができないよう配置計画に留意する。法面は緑化し、道路側に擁壁を設ける場合は、擁壁をセットバックし、高木などで緑化する。

施設計画をしやすくするため、起伏のある敷地を平坦にならして建築物を建てた場合、巨大なコンクリート擁壁ができてしまいます。



擁壁の存在感を緩和する配置と緑化の工夫

# 配　置

## 景観形成基準

●計画敷地が景観資源と隣接する場合は、景観資源との関係性を考慮して
計画建築物を配置するよう配慮する。（❶❷❸❹❺）

※景観資源…その場所における景観を特徴づけている地形・自然や建築物、工作物、公園緑地、水辺・河川、人の活動・営みなどを指す。

方針番号：B1

●地域の特徴や周辺の建築物、みどり、道路等との関係性を踏まえて、
計画建築物を配置するよう努める。（❻❼❽⓫⓬）
●計画敷地内の外構・オープンスペースの質をあらかじめ検討し、
計画建築物を配置するよう努める。（❶❹❼❽❾）
●公開空地や公園等のオープンスペースに面する部分は、壁面を後退させ緑化するなど
オープンスペースと協調したデザインとなるよう配慮する。（❾）

方針番号：C1 C2 C3 C7

ゾーン基準

**都心ゾーン**

●歩行者からよく見える低層部の壁面の位置を揃えるなど、
格子状道路の連続性を印象付ける形態とするよう努める。（⓾⓫⓬⓭）

方針番号：B1 C1 C3 C7

＜配慮事例＞

❶街並みのシンボルとなる建築物や樹木などの景観資源が背景に位置する場合は、これらの見え方を意識して計画する。



シンボルとなる建築物や樹木が隠れてしまっています。

広がりのある空間が確保され、シンボルとなる建築物や樹木が引き立っています。

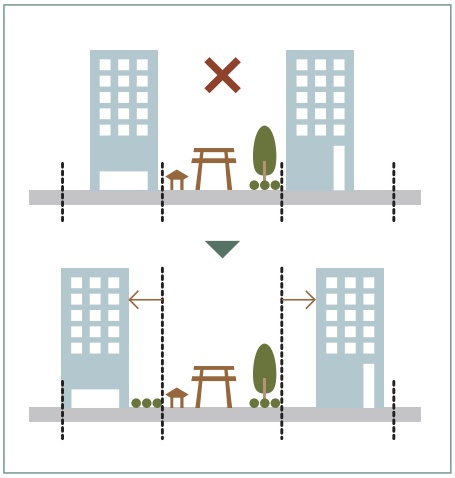
シンボルとなる建築物や樹木が見えるように壁面を後退させたり、近くの建築は低層に抑えるなどの工夫

❷建築物や樹木などに対する視点場を確認し、建築物の配置を工夫し、歴史的な景観資源との良好な関係をつくる。



壁面を大きく後退させて赤れんが庁舎やイチョウ並木の見え方に配慮（日本生命札幌ビル）

❸伝統的な社寺建築物等を地域の貴重な景観資源ととらえ、街並みに埋没しないように配慮する。



❹壁面の位置や建築物の配置を工夫して、景観資源への圧迫感を抑えたり、景観資源を引き立てるよう配慮する。



隣接する建築物が、景観資源側に空地を設けるとともに壁面を後退させて可視範囲を広げることで、通りからの景観資源への見通しに配慮（シティタワー札幌ザ・レジデンス/札幌景観資産：北海湯）※プレ

❺建築物の配置を工夫して、景観資源との一体感の創出や景観資源への視点場づくりに配慮する。





時計台側に大きな開口部を設けるとともに、広場を配置することで、時計台と一体となった空間を創出（札幌時計台ビル）

# 配　置

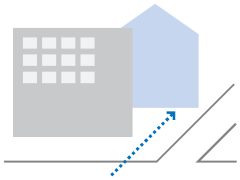
## ＜景観資源との良好な関係性をつくる配置の考え方＞

### 壁面の位置



協調　空間の一体感

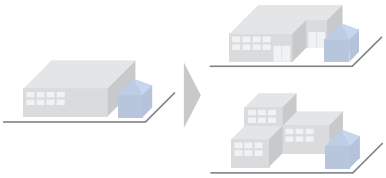
景観資源と協調させて連続的な街並みとしたい場合は、壁面の位置をそろえることで一体感を創出できます。



引き立てる　見せる

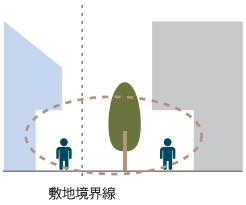
景観資源のシンボル性が高い場合は、建物をセットバックさせることで、際立たせることができます。

### 施設配置



引き立てる

景観資源側に空地を設けることで圧迫感を軽減できます。




空間の一体感　見せる

景観資源を眺めることのできる場所や、敷地境界を感じさせずに使える広場を配置することで、空間の一体感を生むことができます。

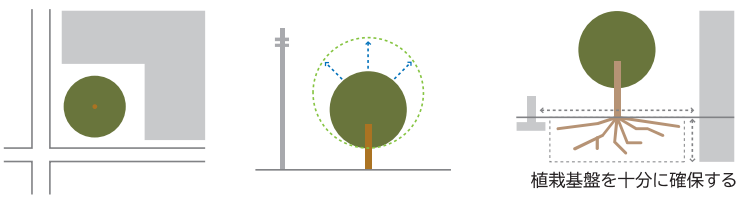
## ＜配慮事例＞

### ❻壁面を後退させ、歩道への圧迫感を抑える。



歩道から壁面を後退させて緑地を配置することでのびやかな景観づくりに配慮
（カゴメ株式会社北海道支店）

### ❽樹木に配慮した開発を心がける。






建物を計画する際は、あらかじめ既存木の位置を確認したり、樹木の成長も考慮することで、樹木と建物がお互いを引き立て合う空間づくりが行えます。また、広場や歩道等の整備をする際に、根を傷つけたり、樹木の生育環境に影響を与えないよう、十分な植栽基盤を確保することで、健康で美しい樹形に育つ環境をつくることができます。

単木を強調した建物の配置、周辺の環境整備を行うことで、古木が街のシンボルとして生かされています。

### ❼道路側にオープンスペースを設け、植栽やベンチなどを配置し、歩道との一体感を演出する。



壁面を後退させて歩道と一体となったオープンスペースを配置し歩行空間の魅力向上に配慮（さつきた8.1）※プレ



歩道際にオープンスペースを設け緑化やベンチを配置
（KABUTO ONE/東京都日本橋兜町）

❾公園・広場・公開空地等に隣接する場合は、敷地際に連続的なオープンスペースを設け、隣接するオープンスペースとの一体感を演出する。



隣り合うビルのオープンスペース（貫通通路）を一体的に整備
（札幌エルプラザ/D' グラフォート札幌ステーションタワー）



公園に隣接する建築物の外構の舗装を、公園と連続的に仕上げ一体感を創出
（札幌駅東公園/ザ・札幌タワーズ ウエストタワー） ※プレ

都 心

❿格子状街路の軸性や見通しに配慮した建築物の配置とする。




壁面の位置と建築物の高さが揃うことで、並木とともに、格子状街路の軸性を強調
（南1条通）

都 心

⓫隣接する建築物と壁面の位置を揃える。



壁面の位置を揃えて一体的な街並み形成に配慮（伊藤ビル/札幌国際ビル）

都 心

⓬壁面を後退させ、歩道への圧迫感を抑えつつ
みどりの軸を形成する。



壁面を後退させて並木の植栽帯を設けることで、歩道への圧迫感を軽減するとともに
みどりの軸を形成（さっぽろ創世スクエア）

都 心

⓭交差点の角部に街角広場を設け、交差点の視界を確保し、ゆとりのある角地景観を創出する。




交差点部にオープンスペースを設けガラス張りのコーナーとすることで
開放的な街角景観を創出（PIVOT CROSS）

# 外観デザイン

## 景観形成基準

●景観資源に近接する場合や景観資源の背景となる場合は、
景観資源と協調したデザインとするよう配慮する。（❶❷❸❹❺）
●計画敷地に存在し、地域の景観を特色づけている建築物や工作物をやむを得ず撤去する場合は、
記憶の継承に資するよう撤去する建築物等の空間構成や素材、仕上げ等を参照し、
計画敷地や建築物に適した活用に努める。（❻❼）

方針番号 B1

●通りからの見え方が単調な印象とならないよう、柱型の活用や開口部のしつらえの工夫等により
建築物の立面を分節化するよう配慮する。（❽）
●周辺の景観と調和しない華美な装飾を避け、目新しさ、話題性、誘目性などに偏重しない
景観としてまとまった印象が感じられるデザインとする。（❾）
●交差点などに面する部分は、角地を意識したデザインとするなど、その場所の印象を高める
デザインとするよう配慮する（❿⓫⓬）

方針番号 C1 C2 C3 C7

●建築物の外部と内部に視覚的つながりがある外観とする場合は、内部の壁や天井の仕上げ、
照明、みどり、インテリアなども景観の観点からデザインするよう努める。（⓭）

方針番号 D1

## ゾーン基準

### 都心ゾーン

●格子状道路の特徴を感じられるよう、隣接する建築物との連続性や街区ごとの
一体性などに配慮したデザインとするよう配慮する。（⓮）
●札幌を代表する主要な通りに面する場合など、場所や用途を考慮し必要な場合は、
経済性のみを重視せず、都心にふさわしい質の高い外観とするよう努める。（⓯）
●計画敷地の場所性に応じて、居住、宿泊滞在機能を持つ建築物の外観は、
外部に生活感が表出しないデザインとするよう配慮する。（⓰）

方針番号 C1 C3 C7

### 一般市街地ゾーン

●地域交流拠点や高次機能交流拠点等のように地域の核となる場所では、
場所の魅力を高めるよう、外観デザインの工夫に努める。（⓱）
●都心ゾーンに近接する場所では、都心の街並みとの連続性に配慮した
デザインとするよう努める。

方針番号 C1 C3 C7

### 山地のみどりに近接するゾーン

●高次機能交流拠点等のように地域の核となる場所では、
みどり豊かな場所の魅力を高めるよう、外観デザインの工夫に努める。（⓲）

方針番号 C1 C3 C7

### 工業地・流通業務地ゾーン

●歩行者の視点でのスケール感を意識し、建築物の長大な立面を分節化するよう
配慮する。（⓳）

方針番号 C1 C3 C7

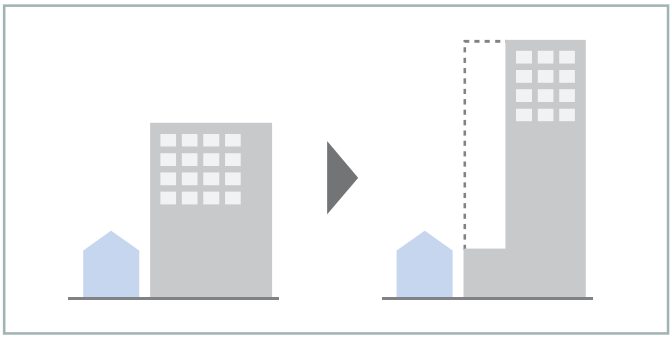
## ＜配慮事例＞

❶建築物や樹木など景観資源に対する視点場を確認し、建築物の高さを工夫したり、素材や形を調和させるなど景観資源との良好な関係をつくる。



背景となる歴史的建造物（旧札幌麦酒会社工場）と建築物の高さや低層部の壁面素材を調和させることで、歴史的な街並みの統一感を創出
（サッポロファクトリーホール/ホテル創成札幌Mギャラリー）

❷景観資源の隣に建築物を建てる場合は、高層部分をセットバックさせるなど、景観資源への圧迫感を軽減させるとともに見え方に配慮する。



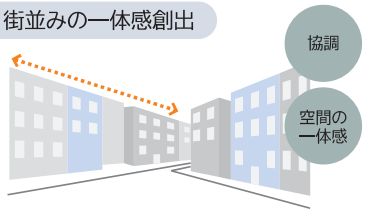
❸外観デザインや壁面の位置、軒線などを景観資源と協調させるよう配慮する。

外観デザイン、壁面の位置、軒高、低層部の外壁の切り替え位置が景観資源と協調し、街並みの連続性や一体感を創出（北菓楼札幌本店/アーバンネット札幌リンクタワー/中央警察署）
※プレ



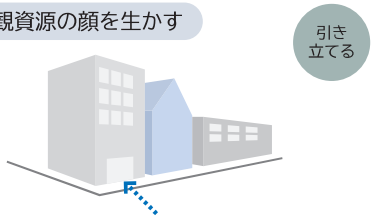
### ＜景観資源等との協調・良好な関係性をつくる外観デザインの考え方＞

**街並みの一体感創出**



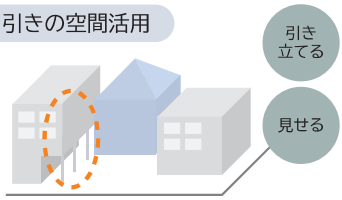

景観資源と建築物のスカイラインや軒線、外観デザインを協調させると、街並みの一体感や連続性を創出することができます。

**景観資源の顔を生かす**




景観資源の入口や顔となる方向に、建築物の正面を合わせることで、景観資源が持つ表情の良さを生かした空間づくりができ、賑わいが生まれます。

**引きの空間活用**




景観資源に隣接する建物は、建築物側面の色彩や形態等のデザインに配慮することで、お互いの関係性を引き立てることができます。

❹ピロティ部分などから景観資源を見通せるなど、景観資源を効果的に見せる工夫に努める。



ピロティから景観資源への見通しが確保され、歩きながら景観資源を楽しむことができる（ブランズタワー札幌）

❺景観資源を眺められる視点場づくりに配慮する。



時計台の向かいのビルの2階に時計台を眺められるテラスを設けることで、地上からとは違った眺めを堪能できる場を創出（札幌MNビル）



隣接する建築物の1Fアプローチや店舗から時計台を眺められる開口部を設置
（札幌時計台ビル）

# 外観デザイン

## ＜景観資源を取り込む外観デザインの考え方＞

### 景観資源を取り込む

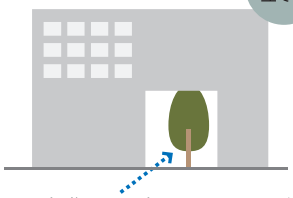
見せる　空間の一体感



建築物を計画する際に、歴史的建造物や樹木が見える位置に開口部を設けたり、見え方を意識した間取りとするほか、アプローチを景観資源沿いにつくることで、空間の変化や豊かさが生まれます。

### 見え方を楽しむ工夫

引き立てる　見せる



建築物の形を意識して工夫することで、景観資源の異なる一面を楽しむことができます。

### シンボル性を守る

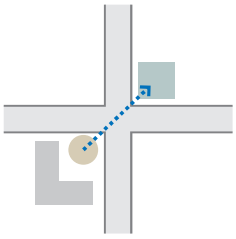
協調　引き立てる



景観資源の素材や色彩、意匠形態を安易に模倣してしまうと、景観資源のシンボル性が損なわれ、建築物そのものが陳腐化することがあります。素材の一部や雰囲気を取り入れるなど、協調を考えたデザインとすることで、景観資源を中心とした景観をつくることができます。

### 様々な場所から眺められる工夫

見せる



景観資源に面して窓やテラス、庭を設けることで、ゆっくりと景観資源を眺めることができます。

❻歴史的資源の再発見・再評価、土地の記憶の読み解き、改築前の建築物との関係などを建築デザインの手がかりとする。
❼新築（建て替え）だけではなく改修の場合でも、住民が愛着を持っている樹木の保存をはじめ、地域に親しまれてきた外観デザインや外壁の素材などの保存・活用を通じて、地域の景観を継承していく。




旧警視庁をモデルとされたと言われている旧中央警察署。
曲線で構成された正面入口・庇・壁面、円柱、入口両側の円窓が特徴的で、昭和モダニズムの息吹を伝える建築物として市民に親しまれていた。



旧札幌大同生命ビル。黒川紀章による設計で、3階部分の空中庭園が特徴的な建築だった。




旧中央警察署の建物形状や正面入口周りのデザインを踏襲した現北海道札幌方面中央警察署。



建築形状を踏襲するとともに、2階に樹木を配した開放的なラウンジを設けることで、往時の空中庭園の記憶を継承
（大同生命札幌ビル/miredo）
※プレ

❽立面の分節化や建築物の分棟化によって壁面に表情をつくり
単調さを軽減する。



低層部は落ち着いた色調、高層部は軽やかな色調として壁面を分節し、
表情のある外観デザイン（札幌4丁目プレイス）

❾華美な装飾を避け、目新しさや話題性を追うのではなく、
周囲との調和に配慮した、シンプルで質が高い、
機能的で飽きのこないデザインとする。



内部の機能と連動して外壁面をガラス面と外装材部分に分節。落ち着いた色調に抑えつつ表情のある外装材とすることで、シンプルながらも飽きのこない外観デザイン
（ウィンズ札幌）

❿敷地が角地の場合は、
向かい合う建築物と形態や色彩の調和を図る。




建築物の形状は異なるものの色調を合わせることで、統一感のある角地の
街並み景観を形成（札幌ゲート/PIVOT CROSS）

⓫交差点に面する部分は、街角を特徴付けるような意匠や設え、
植栽の計画とする。

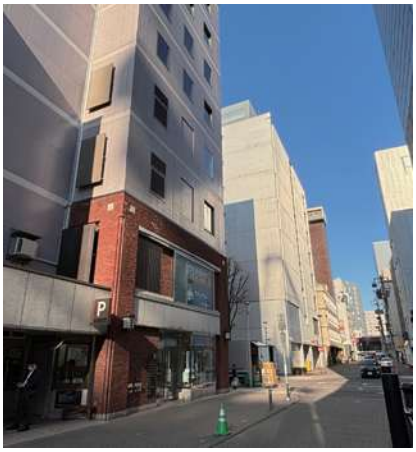


交差点に面して開放的でシンボリックな外観デザインとすることで、
印象的な街角景観を形成（大通ビッセ）

⓬敷地条件に応じて、一方向だけでなく他の角度からの見え方にも配慮し、きめ細かにデザインする。







全方向において正面性のあるきめ細かなデザインを施し、「裏感」を感じさせない外観デザイン（丸一ビルヂングLA GALLERIA）

# 外観デザイン

⓭外部から内部が見える場合、内部の壁や天井の仕上げ、照明、みどり、インテリアなども景観の観点からデザインする。



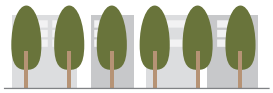
内部の特徴的な斜めの木柱を、全面ガラスの外装越しに見せる印象的な外観デザイン（エア・ウォーターの森）

都 心

⓮建築物の連続性・街区の一体感・都心部らしい質の高い外観デザインに配慮する。



建築物の軒高、色調を揃えることで、一体感のある街区を形成（丸の内二重橋ビル/新東京ビル）



並木沿いでは、建築物の壁面の位置やファサードデザインを揃えるなど、並木が映える街並みづくりに配慮する。

都 心

⓯札幌を代表する主要な通りに面する場合など、場所や用途を考慮したうえで必要な場合は、経済性のみを重視せず、都心にふさわしい質の高い外観とするよう努める。



大通や札幌駅前通に面して重厚感のある外観デザインとしたビル群により風格のある街並みを形成



軽やかながらも質の高い外観デザインのビル群により札幌を代表する骨格軸（北3条通）の風格を創出

都 心

⓰居住や宿泊滞在機能を持つ建築物を計画する際は、場所性に応じて、生活感を抑えた外観デザインに配慮する。



大通沿いの生活感を感じさせない外観デザインのマンション（プライムメゾン大通公園）

市街地

⓱地域交流拠点や高次機能交流拠点等で、地域や広域の人が多く利用する建築物は、地域の核となる魅力的な外観デザインの工夫に努める。



多くの人が集う施設として、人を惹きつける魅力的な外観デザイン（札幌コンベンションセンター）

山地近接

⑱山地の高次機能交流拠点等では、みどり豊かな地域の核として
魅力を高めるよう、外観デザインの工夫に努める。



外装材に木を使い、背景の山並みに馴染んだ屋根形状など、
周辺のみどりと調和した外観デザイン（札幌芸術の森）

工業流通

⑲工場などを計画する際は、長大な立面を分節化するなど、
歩行者の視点でのスケール感を意識した外観デザインに配慮する。



建築物を分棟にしたり立面を分節化することで、長大な印象を和らげる外観デザイン
（札幌市駒岡清掃工場）

# 低層部のデザイン

## 景観形成基準

●歩行者等から良く見える低層部は、機能等に応じて開放性を確保するなど、壁面や開口の位置・大きさ等を工夫したデザインとする。（❶❷❸）
●計画敷地が通行量の多い主要な通りに面する場合は、歩行者等が移動を楽しめるよう、にぎわいの創出に資する機能の配置や建築物の外部と内部に見る見られるの関係をつくることなどにより、低層部の印象を強めるデザインとするよう努める。（❶❷❸❹❺）

方針番号：C1 C2 C3 C7

### ゾーン基準

■都心ゾーン
●計画敷地の場所性に応じて、隣接建築物と低層部の外観デザインの切り替え位置を揃えるなど、通りの連続性を印象付けるデザインとするよう努める。（❻）

方針番号：C1 C3

＜配慮事例＞

❶通りが閉鎖的にならないように
開口部やショーウィンドウを配置する。



内部が見える印象的な開口部を設けた、通りに対して開放的な低層部のデザイン
（D-LIFEPLACE札幌）※プレ

❷人の動きにより活気あるまちの景観を創出するため、
外部から内部活動がわかるような開放的なつくりとする



人々の滞留空間となっているアトリウムを全面ガラス張りとすることで、
外部から内部の様子がうかがえる（札幌市民交流プラザ）

❸通りに面する低層部は視界が抜けるようなガラス張りとし、圧迫感を軽減させる。




低層部を全面ガラス張りとすることで圧迫感を軽減させている（PIVOT CROSS）




商業施設の入る低層部をガラス張りとして内部の様子が見えるようにすることで、
通りの賑わいを創出（東京都原宿/WITH HARAJUKU）

❹店舗やカフェテラスなど賑わいが通りにあふれる用途を配置する。




低層部に飲食店を配置し、オープンテラスを設けることで賑わいのある通りを演出
（赤れんがテラス）




低層部にカフェを設け、屋外にも腰掛けられる段差を設えるなど工夫することで、
賑わいのある通りを演出（東京都日本橋兜町/兜町第二平和ビル）

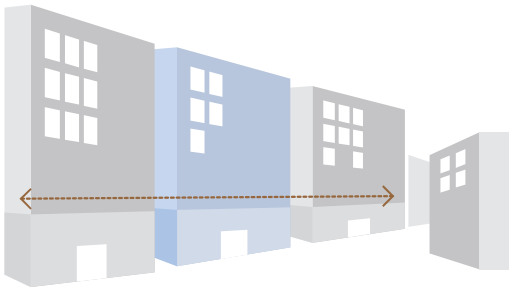
都 心

❺歩道への圧迫感を抑え、移動を楽しめるよう、壁面を後退させる。



低層部の壁面を後退させてガラス面とすることで、快適で楽しく歩ける通りを形成
（moyuk SAPPORO）※プレ

❻隣り合う建築物と低層部の軒高や仕上げ、素材、色彩などを揃える。



低層部の軒高や仕上げ、素材、色彩を揃え
連続性のある街並みを創出する工夫

# 素材・色彩

## 景観形成基準

●景観資源等に近接する場合や景観資源の背景となる場合は、
景観資源との協調した素材・色彩とする。(❶❷)

方針番号: B1

●外観を構成する部分は北の自然環境や周辺の街並み等と調和する色彩とする。
色彩は「色彩景観基準」(P93)による。(❸❹❺❾)
●アクセントとなる色彩は、街の彩となるよう面積を抑えた効果的な使い方とする。
色彩は「色彩景観基準」(P93)による。(❼)
●外構や附帯工作物などの色彩は、計画建築物との調和に配慮する。
色彩は「色彩景観基準」(P93)による。(❽❾)
●光の反射が強い素材の採用を避けるとともに、周辺との調和や汚れへの対応などを踏まえた
素材を選定するよう配慮する。(❿⓫)
●複数の色彩による分節化等に当たっては、形状や素材の切り替えを活用するよう配慮する(❻⓬)

方針番号: A1 C1 C2 C3 C7

### ゾーン基準

**都心ゾーン**
●通りごとの調和に配慮するとともに、洗練された外観となるよう素材や色彩に配慮する。
(❺❿⓭⓮)

方針番号: C1 C3

**一般市街地ゾーン**
●雑然とした印象とならないよう周囲の建築物との調和を図るとともに、
高層部は空の広がりが感じられるよう努める。(❹⓯)

方針番号: C1

**山地のみどりに近接するゾーン**
●背景となる豊かな自然を生かすため、周辺のみどりとの調和に配慮する。(❿⓰)

方針番号: A1 C1

**工業地・流通業務地ゾーン**
●圧迫感を軽減するとともに、殺風景にならないような工夫に努める。(⓱)

方針番号: C1

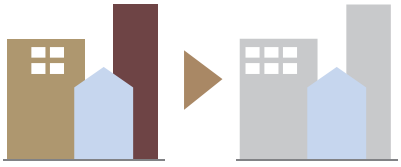
＜配慮事例＞

❶歴史的景観資源を際立たせるとともに、景観資源と調和するよう、低層部にレンガや札幌軟石を使用するなどして、新たに計画した建築物も活かす。

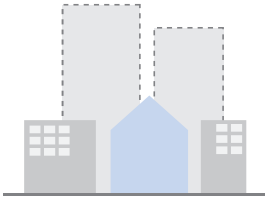


レンガの歴史的建造物と呼応するように低層部等をレンガ貼りにして一体的な雰囲気を演出。歴史的な景観資源は時間の経過とともに素材の持ち味や落ち着きが増すため、調和する素材を選択(サッポロファクトリー)

❷景観資源の背景となる場合は、景観資源と協調した素材・色彩に配慮する。



彩度の高い色を建築物の大きな面積で使用すると目立ってしまい、街並みの調和を乱します。景観資源との調和を考えた色彩を検討すると落ち着いた雰囲気が生まれます。



高層の建築物は遠くからでも認識できるので、色彩や素材が周辺の建築物や背景にある山並みと調和するよう配慮することで、景観資源をより際立たせることができます。

❸自然環境や街並みなど、周辺との調和に配慮し、空やみどり、街並み等に溶け込むような外壁等の色彩を選定する。



色彩景観基準から外れるものや、
周囲の街並みとの調和に配慮していない色彩は避ける。



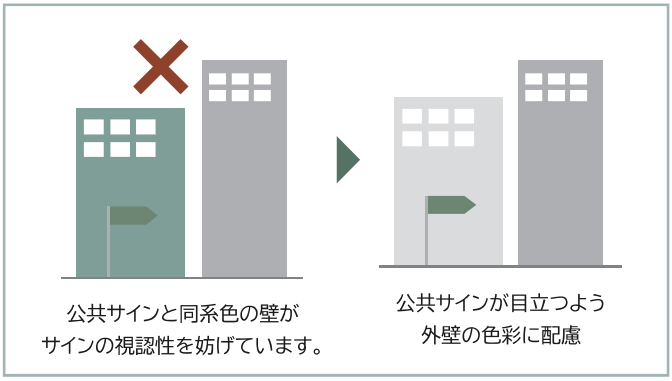
アースカラーの外壁や背景の空に馴染む壁面により、周辺の自然環境と調和
（札幌ホテルbyグランベル）※プレ

❹建築物の高層部の色彩は、
高明度・低彩度にして圧迫感を低減する。



建築物の高層部を白系の色調として圧迫感を軽減
（三井ガーデンホテル札幌ウエスト）

❺公共サイン等の視認性を妨げないように配慮する。



公共サインと同系色の壁が
サインの視認性を妨げています。

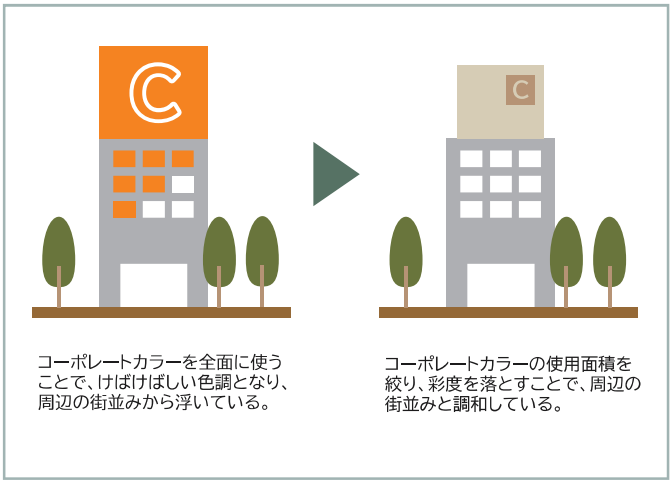
公共サインが目立つよう
外壁の色彩に配慮

❻異なる仕上げを組み合わせて面的なボリューム感を軽減する。



柱型や意匠の凹凸などに合わせた素材の切り替えによりメリハリをつけ
色彩をコントロールしながら面的なボリューム感を軽減（ソラリア西鉄ホテル札幌）※プレ

❼コーポレートカラーを用いるときは、街並みとの調和に配慮し、
必要に応じて使用面積を抑えたり、彩度や明度のトーンを落とす。



コーポレートカラーを全面に使う
ことで、けばけばしい色調となり、
周辺の街並みから浮いている。

コーポレートカラーの使用面積を
絞り、彩度を落とすことで、周辺の
街並みと調和している。

# 素材・色彩

❽ネットフェンスは、一般的に多用されている緑色だけにとらわれず、周辺景観に溶け込む落ち着いた色彩を選択する。



ネットフェンスをグレー系の落ち着いた色にすることで、周辺景観に溶け込んでいる。
（二条小学校）

❾外構や附帯設備などの色彩は、計画建築物との調和に配慮する。



外構の附帯設備を建築物と同様の外装材とすることで景観に配慮（札幌時計台ビル）



室外機に外壁と同色の塗装を施すことで景観に配慮（札幌グランドホテル）

❿自然石や木材など経年変化（エイジング）により深みの出る素材を選び、飽きのこない、いつまでも愛されるデザインとする。



外壁に木材やコルクを使用し、経年変化による深みの出る素材を活用
（ザロイヤルパークキャンパス札幌大通公園）

⓫汚れが目立たない材料や、修繕しやすい材料を選ぶことで、維持管理のしやすさに配慮する。



プレキャストコンクリートにドット柄の模様をつけ、表情を持たせながら汚れを目立ちにくくし、パネル単位での交換を可能とすることで維持管理のしやすさにも配慮した外壁
（明治安田生命札幌大通ビル）

⓬複数色を使用する場合は、塗装による分節だけではなく、外壁形状や素材の切り替えにより、外観の陳腐化を避けるよう配慮する。




レンガとコンクリートの素材の切り替えによる色彩の分節（ホテル創成札幌 Mギャラリー）

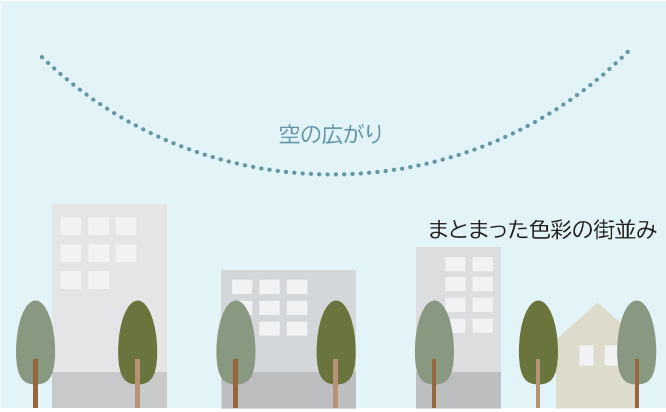
⓭壁面の素材や色彩の組み合わせに配慮して一体感のある個性豊かな街並みづくりに努める。
⓮通りに調和した洗練された素材・色彩に配慮する。




隣接する建築物と壁面の素材や色彩を揃え、一体感のある風格を感じる駅前通を演出
（伊藤ビル/札幌国際ビル）

市街地

⓯雑然とした印象とならないよう配慮するとともに、
空の広がりが感じられる素材・色彩に配慮する。




空の広がりや、まち全体のまとまりが感じられるよう、
周辺の街並みの特徴を踏まえながら素材・色彩を選定する。

山地近接

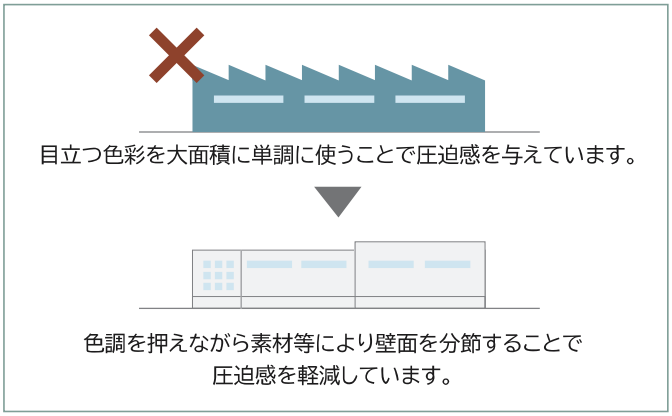
⓰背景となる豊かなみどりとの調和に配慮した素材・色彩とする。




アースカラー系などの外壁素材や、木や石などの自然素材を採用するなど、
背景となる豊かなみどりの調和に配慮

工業流通

⓱工場等の建築物では、大きな壁面による圧迫感を
軽減するような素材・色彩に配慮する。




大きな壁面は、建築物の形態に合わせた素材等の分節などを行ったり、
圧迫感を軽減する色彩を選定する。

## ―適切な素材の選択―

外観を構成する部分の色彩は、札幌の景観色70色とその近似色の範囲の色彩とすることを基本としています。塗装だけでなく、自然石や木材などの自然素材も対象に含まれます。

〈景観色70色の近似色の素材を採用した例〉



中央区複合庁舎
柱：銀鱗近似色（RC打ち放し）
壁（1F）：開拓使近似色
壁（上記以外）：札幌玉葱近似色（木パネル）
花壇：ペチカ近似色（レンガタイル）

〈景観色70色の近似色の塗装を採用した例〉



厚別中学校
校舎棟壁：乳白近似色（一部新雪、霧氷近似色）

# 外構・オープンスペース

## 景観形成基準

●計画敷地に起伏がある場合は、起伏を生かした外構デザインとするよう努める。（❶❷）
●計画敷地の中にある地域住民等から愛着を持たれている樹木等は保全するよう努める。（❸）
●四季の変化を感じられるよう、花が咲く時期や実がつく時期などを考慮して、樹種や草花を適切に取り入れるよう配慮する。（❹❺❼）

方針番号：A1 A2

●計画敷地が歴史的な景観資源や主要な公園・緑地等と隣接する場合は、計画建築物の敷地境界に沿った緑化や緩衝帯となる空地の配置など、景観資源との接点となる敷地境界をデザインするように配慮する（⓫⓬⓭㉔㉕）
●計画敷地に存在し、地域の景観を特色づけている建築物や工作物をやむを得ず撤去する場合は、記憶の継承に資するよう撤去する建築物等の空間構成や素材、仕上げ等を参照し、計画敷地に適した活用に努める。（⓮⓯）

方針番号：B1 C7

●魅力的な沿道の景観となるよう、通りから建築物へ至るアプローチをみどりや照明などにより演出するよう努める。（❹❺❻❼⓴㉖）
●計画敷地に面する主要な通りの緑視率が上がるよう、効果的なみどりを配置するよう努める。（❽❾❿）
●柵などの工作物を設置する場合は、落ち着いた素材や色彩のものを選定するよう配慮する。（⓬⓰）
●集合型居住誘導区域（※みどりの基本計画で定める都市緑化を積極的かつ重点的に推進する緑化重点地区とほぼ同じ区域）では、オープンスペースの設置に配慮するとともに、みどりの潤いが感じられるよう積極的に効果的なみどりを配置するよう配慮する。（❹❾）

方針番号：C1 C2 C3 C7

●公開空地等のオープンスペースを設置する場合は、利用者の行動を想定し、その場にふさわしい空間構成やしつらえとするよう配慮する。（⓫⓱⓲⓳⓴㉒）
●公開空地等のオープンスペースを設置する場合は、通行や滞留などの目的にあわせて適切にベンチ等のファニチャーを配置するよう配慮する。（⓲㉑）

方針番号：D1

●公開空地等のオープンスペースを設置する場合は、将来的な使われ方の変化も踏まえたデザインとするよう努める。（㉓）

方針番号：D2

## ゾーン基準

### 都心ゾーン

●基壇部を設ける場合は、地盤面だけでなく、基壇部の屋上にもオープンスペースを設けるなど、通りから見た時に人のにぎわいが立体的につながるような工夫に努める。（㉗）
●基壇部を設ける場合は、通りから見た時に立体的にみどりのうるおいが感じられるよう、基壇部の屋上を緑化するなどの工夫に努める。（㉘）

方針番号：C1 C3 C7

### 一般市街地ゾーン

●地域交流拠点や高次機能交流拠点といった地域の核となる場所では、場所の魅力を高めるよう、外構デザインの工夫に努める。（㉙）

方針番号：C1 C3 C7

### 山地のみどりに近接するゾーン

●周囲の植生に配慮した樹種や草花を選定するよう努める。
●計画敷地が面する主要な通りの先に山が見える場合は、計画敷地のみどりが山のみどりと連続した印象となるよう、樹木や草花の配置の工夫に努める。（㉚）

方針番号：A1 A2

### 工業地・流通業務地ゾーン

●周辺の市街地との緩衝帯となるよう、オープンスペースの確保に努める。（㉛）

方針番号：C1 C3 C7

＜配慮事例＞

❶敷地が広い場合は、ゆるやかな起伏や豊かなみどりなど、
建築物と一体的にランドスケープデザインを行う。



建築物と一体的にデザインされた外構（エア・ウォーターの森）

❷起伏を生かし表情豊かなランドスケープデザインを行う。



起伏を生かしたみどり豊かな外構（札幌市立大学）

❸地域住民が愛着を持っている敷地内の樹木は保全するように努める。



市民に親しまれている大木を保全（カナモトホール（札幌市民ホール））

### ー親しまれている樹木のシンボル性を生かすー



シンボル樹の植え桝をベンチとすることで憩いの空間にする。
（大阪市/阪神梅田ツインタワーズ）



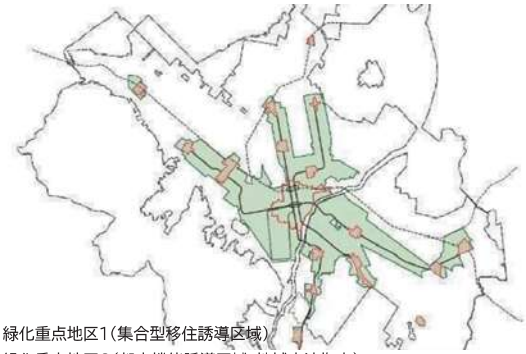
シンボルとなる樹木を強調するような建築物の配置としたり、周りの舗装や植桝、ベンチなどの環境整備に配慮することで、人々が集まる溜り空間を創出することができます。

❹みどりは、隣地のみどりとの連続性に配慮するほか、
季節感を演出する植栽とするなど、効果的に配置する。



北海道庁から北海道警察本部のみどりと連続して、札幌らしさを感じるライラックが植えられたみどり豊かな公開空地（道民活動センター かでる2.7）

### ー札幌市で緑化をより推進している地域ー



緑化重点地区1（集合型移住誘導区域）
緑化重点地区2（都市機能誘導区域・地域交流拠点）
緑化重点地区3（都市機能誘導区域・都心）

（出典：第4次札幌市みどりの基本計画）

札幌市みどりの基本計画では、緑化をより重点的に推進していく「緑化重点地区」を定めています。この範囲内では、より積極的に魅力的なみどりづくりに努めましょう。

# 外構・オープンスペース

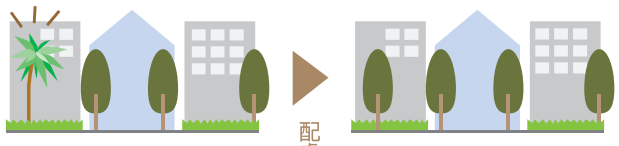
＜配慮事例＞

❺自然植生に合った特徴ある樹木や草花により、地域性を表現する。



北海道に自生するトドマツを主体とした外構植栽により地域性を表現
（シティタワー札幌大通）

❻周辺の樹木や街路樹との関係などを考え、環境に調和する樹種を選んで配置することで、調和のとれた街並みづくりに配慮する。




周辺の景観から突出したシンボルツリーにより、地域に馴染まない違和感のある街並みとなっている。

地域の特性に合わせた樹種を選定することで、調和のとれた街並みとなっている。

❼エントランスやアプローチに、並木やシンボルツリーを配置することで記憶に残る景観を形成する。



豊かな緑地を配置し印象的な桜のゲートを形成しているホテルエントランス
（ホテルモントレエーデルホフ札幌）



印象的な並木植栽により奥行きを感じさせるアプローチを演出（札幌パークホテル）

❽大規模な壁面を持つ建築物は、周辺の街並みへの圧迫感の軽減を図るため、敷地外周に緑地帯や高木を配置する。



大規模建築物の外周に立体感をつけた宿根草の緑地と中木の並木を配置し、
うるおいのある街並みを形成することで歩行空間への圧迫感を軽減（日本生命札幌ビル）

❾可能な限り敷地全体を緑化し、シンボルとなる建築物の背景を整える。



敷地全体に高木を配置しシンボルとなる建築物とともに「森づくり」のコンセプトを表現
（エア・ウォーターの森）

⑩アイストップとなる高木配置や、緑視率の高い効果的なみどりの配置を考慮し、うるおいの感じられる植栽計画とする。



交差点部のアイストップとなる高木が街角の緑視率を高めている。
（ニューオータニイン札幌）



高低差のある宿根草と高木を組み合わせることで緑視率の高い立体的なみどりを創出
（クロスホテル札幌）

⑪敷地に公園が隣接する場合は、公園と一体的に利用できるような計画とする。



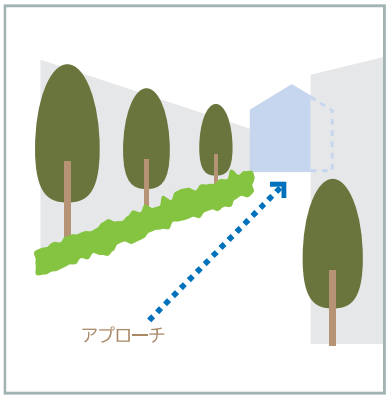
建築物の外構と都市公園を一体的に整備した複合開発（ザ・札幌タワーズ/札幌駅東公園）
※プレ

⑫景観資源が隣接する場合は、舗装や工作物の素材や色彩を景観資源と調和するよう配慮する。



レンガと札幌硬石の植樹枡や舗装、茶系のサインとすることで
北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）との調和に配慮（札幌市北3条広場アカプラ）

⑬景観資源に隣接する場合は、敷地境界部のデザインを工夫することで、景観資源との良好な関係づくりに配慮する。




前面道路との引きの部分に植栽などを施したり、舗装材に配慮することで、景観資源へのアプローチ空間を演出



景観資源と商業施設の境界に、レンガ調のアプローチと広場、植栽を整備することで一体的な空間を形成
（サッポロビール園とアリオ札幌）



歴史的な資源である斜め通りに沿って大きくセットバックさせた歩道状のオープンスペースと低層部のヒューマンスケールな建築意匠・形態により景観資源を強調（札幌ホテルbyグランベル）
※プレ

# 外構・オープンスペース

＜配慮事例＞

⓮歴史的な景観資源の再発見や再評価、土地の記憶の読み解き、改築前の建築物との関係などを外構・オープンスペースデザインの手がかりとする。
⓯地域に親しまれてきた建築物や外構等の素材などを保存、活用し、地域の景観を継承していく。



かつて由緒ある和風建築物が建ち庭園があった土地。軟石塀や景石、庭園木を保存活用し、前庭や中庭を構成しなおすことで往時の景観を継承（パークスクエア中島公園）

⓰ベンチや照明灯、植樹桝、柵などの工作物は、景観要素の1つであることを踏まえ、建築物や外構とのデザイン統一や、周辺環境と調和した形態、素材、色彩に配慮する。



自然素材と周辺に馴染む素材・色彩に配慮した調和のとれたベンチ、舗装のデザイン（中島公園）



ベンチ、照明灯と通路の素材・デザインを揃えることで、統一感のある景観を形成（札幌市北3条広場アカプラ）



歩道のデザインに合わせた外構デザイン（アーバンネット札幌リンクタワー）

⓱アプローチは段差をなくし、車椅子同士がすれ違える幅員を確保するとともに、ユニバーサルデザインに配慮する。




植栽や照明灯を配置しながらゆったりとしたアプローチを確保（アルティウスリンク株式会社札幌センター /旧株式会社KDDIエボルバ） 撮影：佐々木育弥

⑱オープンスペースは、隣地の状況を確認した上で、
使い方、形、しつらえなど連続性に配慮した計画とする。



隣地と連続性のあるオープンスペースとし、エントランス周りにベンチを配置（札幌エルプラザ）

⑲オープンスペースは、歩道との段差を設けず滑りにくい素材を
用いるなど、歩行者に優しい仕上げとする。



平滑で滑りにくい舗装材とした誰もが歩きやすい庇のあるオープンスペース（創成クロス）

⑳オープンスペースのデザインは、建築物のデザインと調和させる
とともに、質の高い素材を用いて上質なしつらえとする。



ストライプを基調とした建築外装デザインと合わせて、外構の植栽や舗装パターンも
ストライプをモチーフにトータルでデザイン（アルティウスリンク株式会社札幌センター /
旧株式会社KDDIエボルバ）

㉑敷地際にオープンスペースを設け、植栽やベンチなどを設置し、
歩道との一体感を演出する。



壁面を後退させて歩道と連続性のある歩行空間とするとともに敷地際に高木を配置する
ことで、歩道と一体的なみどり豊かな通りを形成（札幌北ビル）

㉒建築物と連携し、多様な市民活動ができる場として
屋外交流スペースを設置する。



ビアガーデンなど多様な活動が可能な屋外交流スペース（サッポロファクトリー）

㉓オープンスペースは、多様な使われ方、
将来的な使われ方も踏まえたデザインとする。



テントやテーブルベンチを配置したり、キッチンカーが停められるなど多様なイベントに対
応できる交流広場を設置（札幌市駒岡清掃工場）

# 外構・オープンスペース

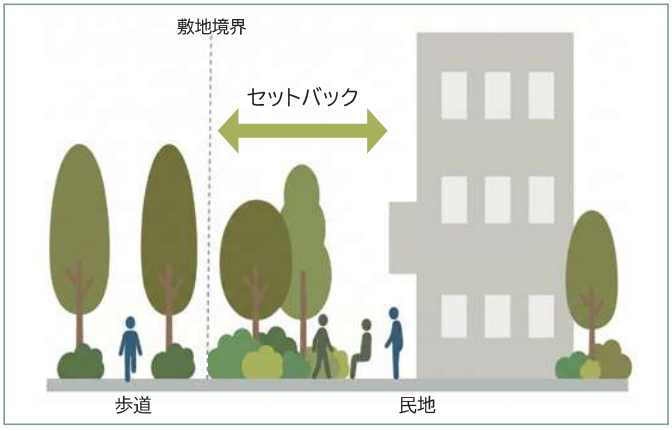
＜配慮事例＞

㉔街路樹や公園、河川などのみどりと連続するように
敷地内にみどりを配置する。



街路樹と呼応するように敷地内を緑化（ライオンズ札幌クロスタウン）

㉕建築物をセットバックさせて街路樹などと呼応するように
民地側も緑化するなど、みどり豊かな空間の創出に配慮する。




㉖塀や柵は道路からの視線に対し閉鎖的にならないように高さを抑え、敷地が見通せるようなつくりとする。




見通しが良く、建築物や庭と一体的に街角の景観をつくる木柵（きのとやファーム店 /KINO TOYA farm cafe） 撮影：佐々木育弥

都心

㉗建築物の基壇部に屋上広場を設け、
通りから人の賑わいが立体的に感じられるよう配慮する。




2階、3階部分に屋外広場を設け、交差点に立体的な賑わいを創出（ココノ ススキノ）
※プレ

㉘建築物の基壇部に屋上緑化を設け、
通りからもみどりのうるおいが立体的に感じられるよう配慮する。




3階以上の部分に屋外テラスを設けて緑化し、通りへの立体的なみどりの潤いを創出（北海道信用金庫 本店営業部）

市街地

㉙地域交流拠点や高次機能交流拠点など地域の核となる場所では、人が集まり滞在したくなるような魅力的な外構デザインに配慮する。



建築物と呼応するガーデンや広場を造成し来訪者の憩いの空間となっている。
（札幌コンベンションセンター）



緑地や木陰、滞留スペースを設けるとともに、来訪者のわくわく感を高める外構デザイン
（大和ハウス プレミストドーム）

山地近接

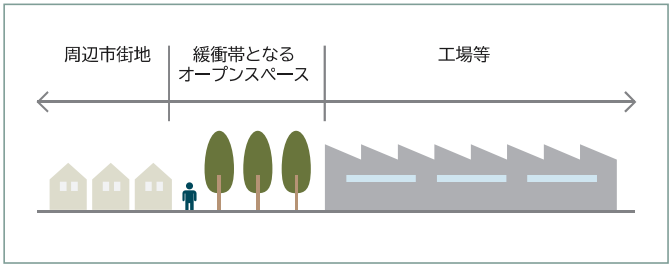
㉚周辺の山並みのみどりと連続的な印象のみどりづくりに配慮する。




背景の山並みからみどりのグラデーションを形成するような緑化計画とするなど、
連続的なみどりづくりに配慮する。

工業流通

㉛周辺市街地との緩衝帯となるオープンスペースを確保する。




工場等の建築物の周りにオープンスペースを設けて緑化するなど、
周辺市街地との緩衝帯を形成する。

## ＜植栽基盤について＞

植栽基盤とは、植物の根が支障なく伸長して、水分や養分を吸収することのできる条件を備えた土層のことです。植物が健康に育つためには、以下の条件を備えた植栽基盤を用意する必要があります。

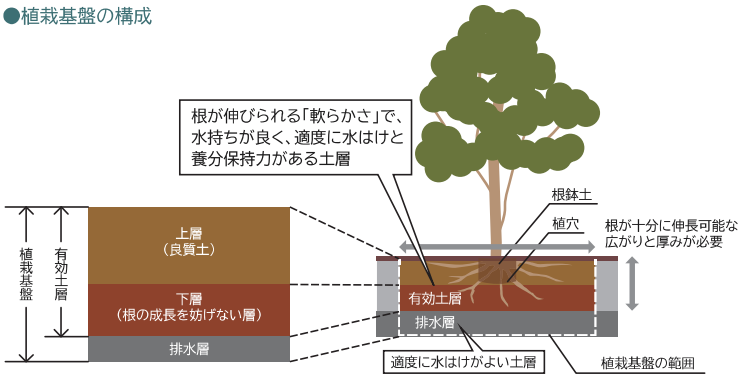
①十分な深さを広がりを持つ

②物理的条件
- ・良好な透水性
- ・適度な硬度
- ・適度な保水性

③化学的条件
- ・生育に障がいを与える有害物質を含まない
- ・適度な酸度
- ・適度な養分量

植物の成長には、植栽基盤の条件ほか、日照条件や雨水（散水）条件なども重要です。植栽基盤と合わせてこれらを総合的に検討し、植物の成長に適した環境を用意することで、質の高いみどりの創出に努めましょう。

●植栽基盤の構成




●望ましい規格別有効土層の厚さ（参考値）

| 樹高 ※ | 高木 | | | 低木 | 芝生・草花 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 12m以上 | 7～12m | 3～7m | 3m以下 | |
| 上層 | 60㎝ | 60㎝ | 40㎝ | 30～40㎝ | 20～30㎝ |
| 下層 | 40～90㎝ | 20～40㎝ | 20～40㎝ | 20～30㎝ | 10㎝以上 |

※樹高は、生育目標の大きさ

出典：植栽基盤整備技術マニュアル（2013年発行）P13～17/一般財団法人 日本緑化センターを元に作成

# 駐車場

## 景観形成基準

●車両の出入口は歩行者による賑わいの連続を分断しない配置とするよう配慮する。(❶)
●駐車場は、やむを得ない場合を除き、前面道路から直接駐車マスに
出入りすることを避けた形式とする。(❻)

方針番号 C1 C2 C3

●車両の出入口等は裏側の印象とならないよう、
みどりなどにより適切に修景するよう努める。(❸❹❺)
●建築物に取り込む駐車場や荷捌き等の車両の出入口は、通りから見える
「開口部の見込み」(※建築物の部分を示す用語)等を外壁と同様の外装材とするなど、
建築物と一体感を持たせるよう努める。(❼)
●立体駐車場やタワー型の機械式駐車場等・駐輪場は主要な通りから
容易に望見できない位置に配置するよう努める。(❽)
●立体駐車場やタワー型の機械式駐車場等を設置する場合は、単調な立面とならないよう配慮する。
この時、模様の印象が強く出ないようにするとともに、
通りに対する圧迫感の少ないデザインとするよう配慮する。(❷❾)

方針番号 C1 C2 C3 C7

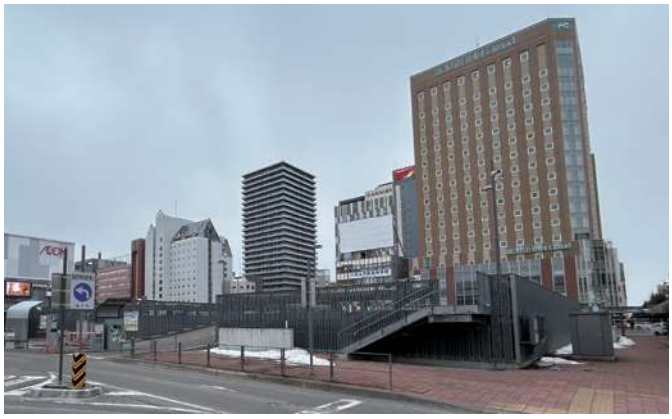
＜配慮事例＞

❶歩行者による賑わいを分断しないよう、駐車場出入口の
位置や設えに配慮する。



駐車場出入口を歩行者動線と連続した舗装にするとともに駐車場サインを
建築物に取り込むなど、歩行路の連続性に配慮(ソラリア西鉄ホテル札幌) ※プレ

❷立体駐車場を設置する場合は、通りに対して圧迫感を
与えないよう配慮する。



駐車場の高さを抑え、周辺景観に馴染む素材・色彩とすることで、通りに対して
圧迫感を与えないよう配慮(旭川駅)

❸駐車場の周りを緑化するなどして修景する。
❹街並みに配慮した場所に配置するとともに、計画の初期段階から外周の緑化スペースを見込んでおく。



駐車場の周りを緑化し、照明で演出することで、街並みとの調和に配慮(創成クロス)



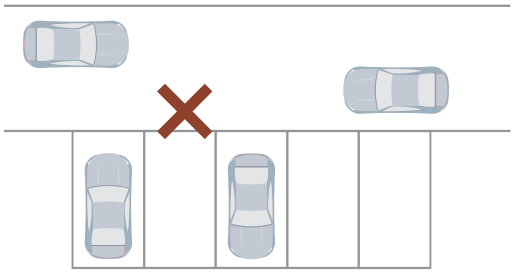
盛土と植栽の活用により、街路からの視え方に配慮した駐車場(市営住宅南郷団地)

❺大規模な駐車場が必要な場合は、敷地内へのゆとり空間の創出や、建築物とのデザイン的な競合を避けるための地下化、施設の壁面緑化などを行う。



駐車場の壁面を緑化することで、圧迫感を軽減（札幌コンベンションセンター）

❻できるだけ、前面道路から直接駐車マスに出入りする平面プランとしない。



安全性の面からもできるだけ前面道路から直接「串刺し」で入る駐車場プランにはしない。

❼建築物に取り込む駐車場では、車両出入口部分を外壁と同様の素材とするなど、大きな開口部の印象を和らげるデザインとする。



駐車場出入口をエントランスや外観意匠と合わせることで、
大きな開口部の印象をやわらげている。（三井ガーデンホテル札幌ウエスト）

❽機械式駐車場や駐輪場は主要な通りから容易に見通せない位置に配置するよう努める。



機械式駐車場を主要な通りから見えない位置に建築物で囲むように配置し、
中通りの低層部の賑わい用途を前面に配置することで駐車場が目立たないよう配慮
（ソラリア西鉄ホテル札幌）※プレ

❾機械式駐車場や駐輪場を設置する場合は、単調とならない素材・色彩および圧迫感を与えないデザインに配慮する。




周辺の街並みに調和し単調とならない素材・色彩に配慮した機械式駐車場

# 附帯工作物

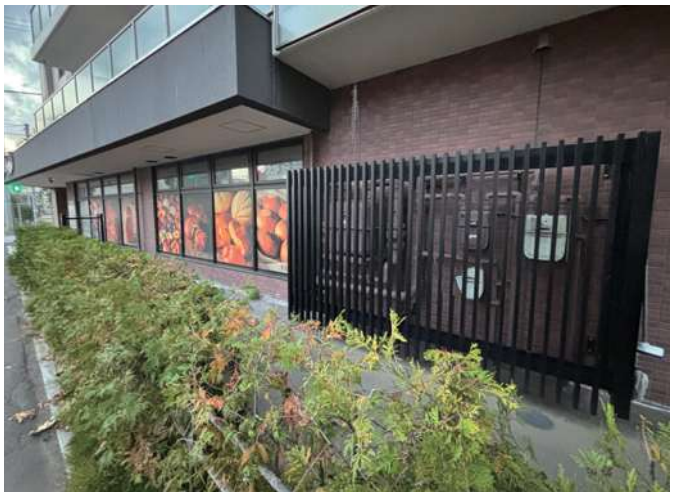
景観形成基準

●屋外に設置する建築設備は可能な限り建築物と一体的に見えるような目隠しを設置するよう配慮するとともに、主要な通りから容易に望見できない位置に設置するよう配慮する。（❶❷）
●自転車置き場やごみ置き場、物置など敷地内に附帯する建築物・工作物は、建築物本体に取り込むことを基本とするが、やむを得ず別棟で建築等する場合は、建築物本体との関係性を十分考慮し、配置するよう配慮する。主要な通りに面して配置する時は、歩行者に対して閉鎖的な印象を与えないよう、みどり等により修景するよう配慮する。（❸❹）
●太陽光発電設備を屋上や地上に設置する時は、通りからの見え方に配慮した位置に設けるよう配慮する。太陽光発電設備を外壁に設置する時は、建築物の外観として見た時の違和感を低減できる設置位置とするよう配慮する。（❺❻）

方針番号
C1
C2
C3
C7

＜配慮事例＞

❶目隠しが必要な場所は植栽などによってやわらかく遮蔽する。



設備類を建築物の外壁と同色にするとともに、ルーバーで目隠しをして手前を植栽帯とすることで目立たないよう工夫（あすかHOUSE中央）

❷空調・換気設備や自動販売機などについては建築物と同様の色彩や材質の仕上げとするか、建築物に組み込んで一体化させる。

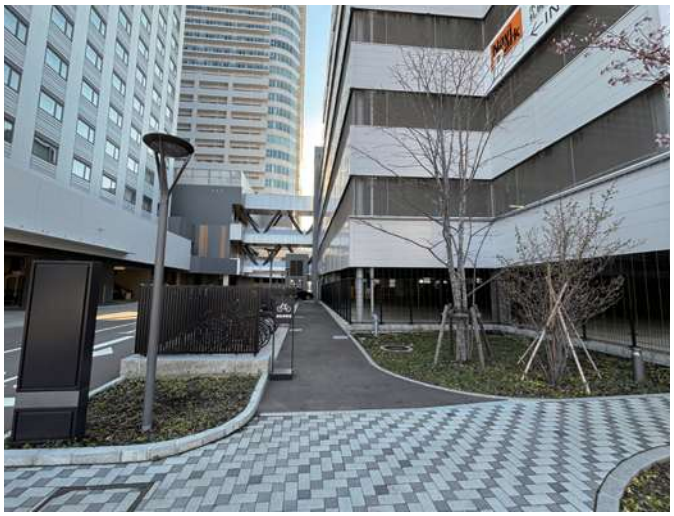


外構の附帯設備を建物物と同様の外装材とすることで景観に配慮（札幌時計台ビル）



室外機に外壁と同色の塗装を施すことで景観に配慮（札幌グランドホテル）

❸自転車置場やごみ置場などをやむを得ず建築物本体と別棟とする場合は、配置や色彩、修景に配慮する。



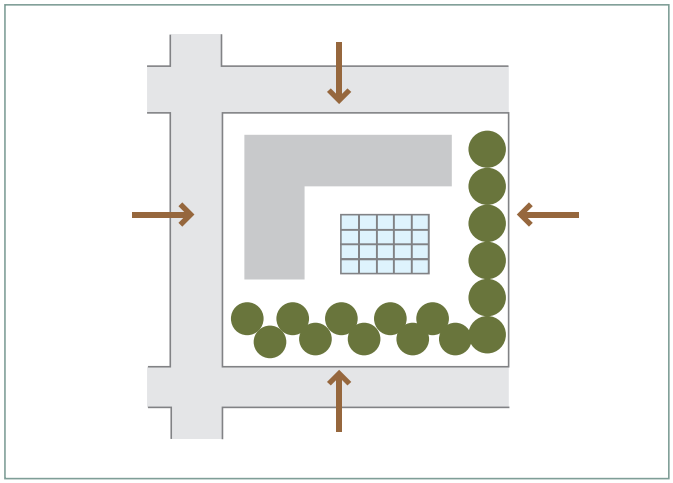
主要な通りから見えにくい位置に、周辺の工作物等と色彩・素材が調和した柵で目隠しをした自転車置場（さつきた8・1） ※プレ

❹歩道と敷地との間が閉鎖的な関係にならないような塀のしつらえとする。

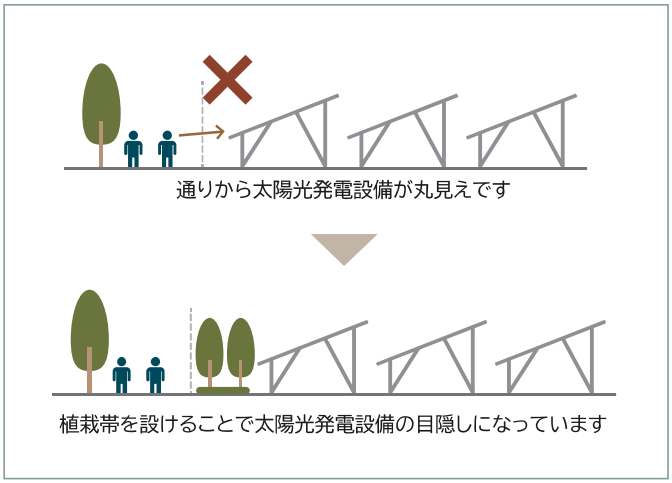


設備類の目隠し塀を、建築物と調和する素材・色彩とし、サインを組み込んだデザインとすることで閉鎖的な印象を軽減（ザ・札幌タワーズ） ※プレ

❺太陽光発電設備は道路から見えにくい位置に設置するか、植栽や柵などで目隠しする。



太陽光発電設備を設置する際は、道路からの死角になる場所に設置するほか、
植栽などで目隠しをする。




❻太陽光パネルを建築物の外壁や屋根に設置する場合は、建物デザインと調和した設置方法の工夫や適切なパネルの仕様を選定する。



外壁と一体となり建築物のデザインとして調和した太陽光パネル（NTT大通4丁目ビル）

# 広告物・サイン

景観形成基準

●景観資源に近接する場所では、景観資源と調和した広告物・サインを表示・掲出するよう配慮する。（❶）

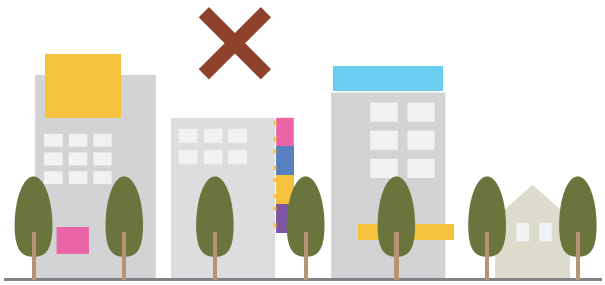
方針番号 B1 C8

●広告物・サインは視認性を確保できる最小限の大きさとするよう配慮する。（❷）
●広告物を複数掲出する時は集合化するよう配慮する。（❸）
●広告物・サインは周囲の街並みと調和する色彩デザインや照明とするよう配慮する。（❹❺❻❼❽）
●激しく動光が変化するものや華美なものは原則使用しない。（❾）
●広告物・サインに関するガイドラインが策定された時は、ガイドラインにも準拠する。

方針番号 C8

＜配慮事例＞

❶周辺の建築物や広告物を読み解いて、街並みの魅力を引き立たせるデザインとする。



街並みの統一感を阻害するような広告物は避ける。

❷箱文字や切り文字としたり、大きさに配慮するなど、建築物と調和したシンプルなデザインとする。




建築物のデザインと調和したシンプルな切り文字のサイン（PIVOT CROSS）

❸広告物を複数個表示する場合は、集合化を図り必要最小限の設置数とする。




広告物を集合化

❹沿道に雑多な広告物・サインは避け、まとまりのある街並み形成に配慮する。



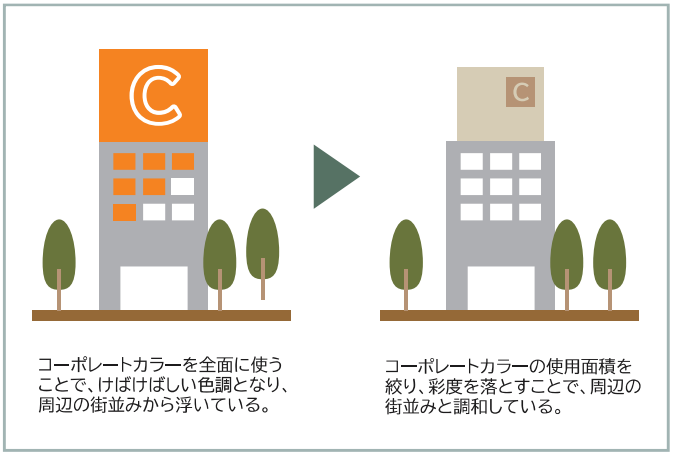
建築物の外観と色彩を調和させた最小限の突き出し看板とガラス面でのサインにより、まとまりのある街並みを形成（敷島ビル）

❺彩度や使用する色の数を抑えるなど、色使いに配慮し、
通りの雰囲気を大切にする。
❻昼間だけでなく、夜間の見え方にも配慮して計画する。



色彩を茶系にし夜間の見え方にも配慮することで、
通りの雰囲気を大切にした集合化サイン（赤れんがテラス）

❼コーポレートカラーを用いるときは、街並みとの調和に配慮し、
必要に応じて使用面積を抑えたり、彩度や明度のトーンを落とす。




コーポレートカラーを全面に使うことで、けばけばしい色調となり、周辺の街並みから浮いている。

コーポレートカラーの使用面積を絞り、彩度を落とすことで、周辺の街並みと調和している。

❽公共的な情報と店舗などの看板が互いに機能を損なわないよう設置場所やデザインに配慮する。
❾周辺の環境に配慮し、過度に明るいものや、ネオンサインなど激しく動光が変化するものは使用しない。




街並みの統一感を阻害するような広告物は避けましょう

## 維持管理

景観形成基準

- ●維持管理の体制やルール、役割分担等について事業計画時から計画するよう努める。（❶❷❸❹）
- ●景観の質が担保されるよう適切に維持管理するよう配慮する。（❸）
- ●使用しない広告物の掲出物件や附帯設備などが生じた時は、廃れた印象を与えないよう、適切に維持管理するよう努める。（❹）

方針番号 D2

＜配慮事例＞

❶オープンスペースが継続的に使われるよう、地域の特性を踏まえ、利用者の属性や使われ方などを詳細に検討する。
❷オープンスペースの活用・維持管理のため、地域住民が関与するマネジメントの仕組みを検討する。
❸外壁改修の修繕計画や植栽の手入れなどの計画について、長期的な視点に立って事前に計画する。
❹広告物の更新時を見据え、掲出のルールを事前に明確にする。